

法科大学院 「統一適性試験」速報

当校講師による
解答・解説

今後の適性試験対策のご参考
にしてください！

日弁連法務研究財団 2004年6月13日(日)実施試験

ここでの掲載は解答・解説(第4部は解答例)のみとなります。ご注意ください。
なお、これらの問題別の解説ページは、都合によりプリントアウトができません。

当校講師の解答・解説が市販書にて発刊！

河合塾ライセンススクール講師陣による2004年実施「適性試験」の解答・解説が
法学書院発行の月刊誌「受験新報 2004年9月号」(2004年8月1日発行)に登場！
大学入試センターの全問題と、日弁連法務研究財団の第1・2部の一部問題について、
問題付きで掲載されます。ご興味のある方は、ぜひお求めください！

右の写真は、同雑誌2004年7月号です。



第3部 長文読解力を測る問題

問題1

【全体コメント】 下線部に関する問題が多いので、該当箇所の前後をよく読むことで正解を導き出せるだろう。ただ、紛らわしい選択肢が含まれている問題もあり、慎重に対処する必要がある。

(1) 正解1

筆者が機中で観た映画の暗示する新しい結婚観・家族観に関する問題。映画の内容が詳しく述べられているので、それと整合しない選択肢を選ぶのは容易であろう。1の「もっと安心して一緒の時を過ごすこと」は、ベルーシとブラウンが結婚した後も別々に暮らし、それぞれの仕事に励み、互いにとって都合のよいときに会うという映画の内容と整合しない。これに対して、2以下の選択肢の記述は、どの側面を強調するかという違いはあるものの、いずれも上に述べた映画の内容と整合的である。よって、正解は1である。

(2) 正解3

次の文以下で下線部の意味が説明されている。その核心と言える内容を正しく見きわめたい。わざわざ「見えざる革命」と言っているのだから、「見えざる」と「革命」の両方の意味を含む選択肢3の「家庭をささえるのが、家族らしく振る舞う演技となったこと」を選ぶべきである。1の「家族たちの心も家庭生活の実態も、昔とはすっかり違ってしまった」は、それだけでは「見えざる」の意味を含まない、単なる「革命」である。2の「ドラマのなかでしか、古きよき家庭らしさを味わえなくなった」は、「見えざる革命」の内容というよりも、むしろその結果である。4の「家族のお互いが本心を口にすることがタブーになった」は、2と同様、「見えざる革命」の内容ではなく、「見えざる革命」が起きた後の家族に関する指摘である。5の「かつての家族・家庭の機能がほとんど失われた」は、1と同様、それだけでは「見えざる革命」の説明としては不十分である。忘れてはならないのは、かつての機能がほとんど失われた」としても、やはりみんな、1番大切にしなければならない対象は、家族だと思いついて入っている」ということである。

(3) 正解5

空欄に適切な語を補充する問題。「現実の家族がどうあるか、ではなく、むしろ」とあるので、「家族の現実」と反対の意味の語を選べばよい。したがって、1の「家族の義理」、3の「家族団欒」、4の「家族の孤立」は不適切であろう。さらに、空欄()を含む文が「つまり」ではじまっているので、前の内容(「私たちの心にとって、今もなお、家族・家庭が大切な心より所なのは確かである。…やはりみんな、1番大切にしなければならない対象は、家族だと思い込んでいる」)に合致するものを選べばよいので、2の「家族演技」よりも5の「家族幻想」の方が適切であろう。

(4) 正解2

家族が演技する理由は、文章の少し後の部分で明確に示されている(「家族たちは、お互いに自分の家族・家庭について、この幻想が幻滅に陥る悲哀を味わわぬよう、懸命に演技しあう。この演技によって、それぞれが、自分は、よい家族をもっていると思い込むことで自己愛を満たす」)。家族の演技は、家族には既に革命が起こっており、現代の家庭はかつてそれが持っていた機能の多くを失ってしまったということを否認するための所作であると言える。この事態を過不足なく表わしている選択肢は2の「家族が崩壊していることを直視しなければならなくなる」であろう。1の「家庭のない家族となってしまう」、3の「家庭機能の多くを失ってしまうことが怖い」、4の「家庭が空っぽになってしまうと心配である」、5の「もっているよい家族を失ってしまいたくない」は、いずれもそうした事態がまだ起こっていないという前提で述べられうるものなので、不適切である。

(5) 正解1

すぐ後の部分で、いまやホテルや下宿にも似た場所になり、家族がその同居人に近い存在になってしまった家庭から失われていない機能は、「よい家族をもち、自分は夫らしく、親らしくやっている」といったわれわれの思い込みを満たすことだけであると説明されているので、正解は1の「自分はよい家族をもっていると思って満足する機会の提供」である。

問題2

【全体コメント】 部分的記述内容の把握および空欄補充の問題。奈良・平安時代の御霊信仰に関する文章であり、耳慣れない言葉が用いられていて戸惑うかもしれないが、論旨は明快であって、正解を導き出すのはそれほど難しくないのである。

(1) 正解3

設問に対応する箇所(第2、第3段落)がわかれば、正解を選ぶのは容易であろう。「長岡京はなぜ放棄されたのでしょうか」という問いに対し、「長岡京は洪水に見舞われて、地勢の悪条件が判明したということも、その理由に数えられています」とあるので、2の「長岡京の地勢が悪かった」、4の「長岡京が洪水に見舞われた」は不適切。また、「桓武天皇が…非業の死をとげた早良親王の怨霊の恐怖に取り憑かれてしまったことも、意外に深刻切実な長岡棄都の理由の1つだったようです」とあり、次段落でその事情がさらに詳しく説明され、そのなかで「(延暦9年の9月には安殿親王も病気になって…)安殿親王の病は早良親王の怨霊の所為だということがひそかに取りざたされるようになりました」とあるので、1の「桓武天皇が早良親王の怨霊の恐怖に取り憑かれた」と5の「安殿親王の病が早良親王の怨霊の所為だと取りざたされた」も不適切である。よって、正解は3の「相次いだ凶事が他戸親王の怨霊の所為とされた」となる。

(2) 正解5

空欄()を含む文は、「要点を端的に言えば」という言葉からもわかるように、それまでの議論(特に前段落の内容「京の宮廷内のできごとが、遠い...国にまで波及し、民衆をまきこんだ不穏な動きに発展しかねなかった」)を要約したものである。「怨霊とは、たんにその怨霊に対して何らかの心の負い目を持つ者だけの妄想や心理的な現象にとどまるものだったのではなくて、()だったのだ」の「その怨霊に対して...妄想や心理的な現象」が「京の宮廷内のできごと」に対応し、()が「民衆をまきこんだ不穏な動き」に対応すると考えられるので、最も適切な選択肢は5の「社会現象」となる。

(3) 正解5

下線部を含む文ではじまる段落では、貞観5年の神泉苑での御霊会に関して幾つかの指摘がなされており、そこを読んだだけでは筆者はどの点を「ひじょうに興味深い」と考えているのかは必ずしも明らかではない。そこで、次段落の冒頭を読むと、前段落の内容が要約されており、筆者がどこに注目しているかが非常によくわかる。「かつて朝廷が断罪した者を御霊として祀る民間信仰は...もはやおさえがたい盛況ぶりだったので、朝廷が率先してこれを修することで...」と述べられているので、正しい選択肢は5の「朝廷が主催して御霊会を修することになった」となる。

(4) 正解5

朝廷が率先して御霊会を修することで、「()になりかねなかった」ものをそうさせなかった(この「そうさせなかった」が本文の「そっくり()」という部分に対応する)と言われているのだから、「なりかねなかった」という否定的な評価が朝廷の側からのそれであることは明らかである。したがって、2の「反民衆的な動き」、3の「反宗教的な動き」、4の「反世俗的な動き」は不適切であろう。1の「反社会的な動き」がやや紛らわしいが、空欄()の方を見てみると、この動きを「朝敵側にまるめこんでしまおうとした」とされており、意味が通らないので不適切だと判断する。

(5) 正解3

選択肢の記述が互いに類似しているので少し紛らわしいが、本文の記述は明瞭なので、それほど難しくはないであろう。一見したところでは、問題は「疫病や天災を誰の祟りとして恐れたか」と「どのようにして、何の平穩を回復しようとするのか」であるように見える。だが、「疫病や天災をどのようなものとして恐れたか」という点について本文を見ると、御霊として祀られるのは「事変に連座して誅せられた人々」、「かつて朝廷が断罪した者」であるとされており、この点では1から5の選択肢のいずれもが正しいと言えるのである。したがって、解答の鍵は「どのようにして、何の平穩を回復しようとするのか」という点にある。まず、5の「朝廷が見物人を集めることによって」が誤りであることは明らかであろう。3の「朝廷が御霊会を修する」は、御霊信仰の特定の形式(政府主導のそれ。その目的が「政府の平穩の回復」であることもこれで説明がつく)に関する記述である。残る1、3、4の選択肢の違いは、「政府」、「社会」、「庶民」のいずれの平穩を回復しようとするかという違いであるが、御霊信仰は民間信仰としてはじまり、後に朝廷によって篡奪され利用されたという本文の論旨から、「政府」、「庶民」のどちらか一方ではなく、両者の総称としての「社会」という語を含む3を選ぶべきであろう。

問題3

【全体コメント】 日弁連適性試験の問題文としては短い文章であり、論旨も明快である。設問も標準的な難易度のものであり、長文読解分野では最も解答しやすい問題だったのではないだろうか。

(1) 正解1

フンボルトの教養理念は第2、第3段落で詳しく述べられているので、解答は容易だろう。「本来の意味における自己の営み」は「純粹なる学問」への献身によって達成され、その「純粹なる学問」は「實際生活に直接関係をもたず、實際生活に応用され、それとともに特殊専門化された学問ではない」とあるので、3の「純粹なる学問は、實際生活に直接に関係をもたない」は不適切であり、1の「純粹な学問は、高度の専門性によって支えられなくてはならない」が正解であることがわかる。それ以外の選択肢について確認しておく、「あらゆる学問的認識は、知識ならびに真理の「全体」に向けられなければならない」とあるから、2の「学問的認識は、知識や真理の全体に向けられなくてはならない」は不適切であり、大学は「これから職業を見つけなければならない若者たちのためにあるのでは決していない」のだから、4の「大学は職業発見のための教育機関ではない」も適切ではない。「フンボルトが...個人の精神的自立と完成を求めている「純粹なる学問」を営む場所として大学を考えていた...」とあるので、5の「大学は個人の精神の自立と完成のための場である」も不適切である。

(2) 正解5

それまでの記述、そして空欄()を含む文のすぐ後の文の「フーゴの、学問を学んだ者は古靴の修理あるいは陶芸を営むという考え方...は完全に捨てられていた」という記述から判断する。フーゴの考え方に近い、2の「実用的な学問の習得」、4の「職業人としての完成」が不適切であることは明らかである。また、前段落で、大学のような施設は「自分の使命やしっかりした職業に関して国家にすっかり満足している知識人」などのために存在するとされているので、3の「自分の使命の獲得」も適切ではない。1の「高度な教育」という抽象的な表現は、誤りであるとは言えないが、前段落で「フンボルトが...個人の精神的自立と完成を求めている「純粹なる学問」を営む場所として大学を考えていた」と明記されているので、5の「個人の完成」の方を選ぶべきであろう。

(3) 正解2

それまでの議論の流れを把握していれば、解答は容易であろう。まず、()については、ユストゥス・メーザーの言葉はフーゴの「学問を学んだ者は古靴の修理あるいは陶芸を営む」と同趣旨のものであると考えられるので、2の「手工業」が最も適切であるように思われる。少なくとも、1の「哲学」と5の「世界観」が不適切であることは明らかである。また、4の「伝統文化」もややずれるであろう。()と()は、それまでに詳しく述べられているフンボルトの考え方と合致するものを選ぶことになる。ここでもまた、「ドイツの教養大学の範となったベルリン大学の創立者フンボルトが、実際に通じた実用的な学問ではなく、個人の精神的自立と完成を求めている「純粹なる学問」を営む場として大学を考えていたことは注目すべき点である」がヒントになるだろう。「ベルリンは不適當な場所であるとされていた」という表現と併せて考えれば、()に3の「最新都市の先進的環境」が入ることはありえない。

(4) 正解3

本文に書かれているかないかというレヴェルの問題。「教養を身につけさせ、人格を陶冶させることがドイツの大学教育の目的であった」という点を踏まえて本文の記述を検討することで、正解を導き出せるだろう。他の選択肢の記述が本文のそれと重なるのに対して、3の「大学が市民に対して閉鎖的な態度をとった」は、本文の「このような施設(=大学)は...すでに産をなしている市民のために存在する」という記述と整合しない。

(5) 正解4

これも本文に書かれているかどうかというレベルの問題である。最後の2段落をよく読むことで正解を導き出せる。1の「日本の大学は...教養重視の姿勢が徹底している」は、本文の「わが国の国立大学はフンボルトたちの教養大学の理念を受け継ぎながらも、その理念は徹底せず、実務や実利にも配慮した大学を創設することになった」と矛盾する。この箇所からは、2の「日本の大学も...実務を知らないリーダーだけを輩出してきた」も不適切であることがわかる。3の「大所高所から社会を見る訓練のために工学部が設置された」は、「フンボルトたちが否定した大学像...の一部を受け入れてわが国の国立大学は成立したのである。たとえば工学部が大学の学部として設置されたことなどである」と整合しない。5の「日本の大学の卒業生は、ドイツとは異なり、軍国主義の担い手にはならなかった」は、「ドイツと同じく、大学出とそうでない人との間に差を生ずることになった。ドイツの教養大学の卒業生が最終的にはナチズムの担い手になったといわれているように、わが国でも第2次世界大戦にいたる悲惨な結果をもたらすことになったのである」と矛盾する。

問題4

【全体のコメント】 文章全体の流れを掴み、部分的な記述内容に合致する/しない選択肢を選ぶ問題。科学それ自体というよりも、人々の科学観、さらには「科学観」観とでも言うべきものに関する文章であることに注意したい。著者の理解や意図に関する問題((1)、(4)、(5))はやや難解であり、慎重に解答しなければならない。

(1) 正解3

「クローデルがどのような嫌悪感を抱いているか」ではなく、クローデルの嫌悪感「に関する著者の理解」が問われていることに注意したい。クローデルの手紙は「知識体系を与える科学に対する嫌悪」の例であり(「私たちはやっと...幸いある無知を呼吸することができます」といった言葉がヒントになるだろう)、「便利なものや技術を生み出すものとしての科学に対する嫌悪」や「キリスト教的世界観に反するものとしての科学に対する嫌悪」の例ではない。2の「科学によっては戯曲文学のすばらしさが認められない」というような議論は本文にはなく、また、5の「新しい科学者には嫌悪される」は、クローデルは科学者ではないのだから不適切である。よって、正解は3の「科学の明らかにする真理や知識体系は、それを知りたくない者に嫌悪される」となる。

(2) 正解2

筆者は文章全体を通じて、科学の価値が「役に立つかどうか」に還元される傾向があることに異議を唱えている。よって、科学の価値を有用性によって判断する1の「医学の発展は人間の命を救い、苦しみを和らげるので、価値がある」や3の「医学の研究も、それが患者の救済に結びつかないものには価値がない」は不適切である。また、ファインマンの言葉を引用しつつ、科学的発見(基礎的研究)の価値がその応用(それを応用した研究)を通じてしか評価されない現状に対する違和感を表明している。よって、5の「医学の発展が必要とされたからこそ、その基礎となる生物学や化学が発展した」も正しくない。さらに、このことと相關的に、筆者は「必要は発明の母」ではなく「発明が必要の母」なのである」という考え方を支持しており、4の「病気で苦しむ人がいるからこそ、医学の発展がもたらされた」は不適切である。科学の価値を有用性から切り離している2の「医学の発展によって人間の体や病理の解明がなされることそれ自体に価値がある」が正解となる。

(3) 正解2

全体の論旨を把握していれば容易に解答できよう。というよりも、そもそも2の「有用性を離れた純粹科学は、有害性をもたない」は、最初から2番目の段落の「物質とエネルギーとは相互変換するという」純粹な理論は、制御不可能な莫大なエネルギーを安直に作り出す道を拓いた」とは明らかに矛盾する。

(4) 正解5

筆者の科学観はこれまでの設問で検討したとおりであり、また選択肢に挙げられている各人に対する筆者の評価もはっきりしているため、選ぶべきものは明らかであろう。筆者は P・クローデルに象徴される科学観に異議を唱えており、また木村敏の主張を「文学的言い回し」として斥けている。ただ、レヴィ＝ストロースについては注意が必要であろう。「レヴィ＝ストロースが明らかにしたのと逆に、近代以降の社会が、科学の役割として、有用性を知識体系の形成より重んじた」という記述は、筆者とレヴィ＝ストロースの科学観の違いを表わすものではなく、現代においてはレヴィ＝ストロースや筆者のような科学観の持ち主が少数派となっている(あるいは、そう考えられている)ことを示している。

(5) 正解4

筆者にとって、i モードの流行は「需要が供給をうながす」という考えを批判するための有力な例であり、アーサー・コーンバーグの「産業においては“必要は発明の母”ではなく“発明が必要の母”なのである」と同様に、「“需要が供給をうながす”とは必ずしも言えず、“供給が需要をうながす”とも言える」ことを示唆するものである。このことを過不足なく表わしているのは 4 の「魅力的な商品が供給されることではじめてその購買需要が喚起されることもある」であろう。

以上